

第4学年 国語科学習指導案

日時 平成18年12月1日 4校時
児童 4年1組 男22名 女14名 計36名
指導者 盛岡市立城南小学校 豊川浩子

1. 単元名 材料の選び方を考えよう
教材名 「アップとルーズで伝える」(中谷 日出)

2. 教材の指導にあたって

(1) 教材について

本教材は、「段落相互の関係を考えながら、中心的事柄を読み取ること」をねらいとした教材である。

教材「アップとルーズで伝える」は、テレビや新聞などを通して私たちに届けられる映像や写真が、送り手の意図に応じて取捨選択されたものであることを、基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して述べた説明文である。子どもたちが、日頃からよく目にしていくメディアであるテレビの映像技法を中心に述べられており、身近に感じられる内容であるとともに、実際に確かめることも容易である。今後、自らの知識や世界観を形成するにあたって、メディアからの影響を少なからず受けるであろう子どもたちに、メディアを通じて受け取っている情報が、送り手の意図に基づいて取捨選択されたものであるという視点を与えることができる作品であると考えられる。

文章全体は、「 問題提起(形式段落)・ 説明()・ まとめ()」という大きく3つのまとまりで構成されている。「 問題提起」では、「アップ」と「ルーズ」の画面の特徴を紹介しながらそれぞれの定義を述べ、「どんな違いがあるのでしょうか。」と問題を投げかけている。「 説明」では、アップとルーズの伝えられることと伝えられないことを対比的に説明している。「 まとめ」では、テレビでも新聞でもアップとルーズが使い分けられおり、目的に応じて伝え方が取捨選択されていると締め括られている。形式段落 と は対比関係にあつて がそれをまとめる、 も同様の関係にあり、さらに、 を受けて がまとめる、という分かりやすい構成になっており、段落相互の関係を考えながら読み取る教材として適材であると考えられる。

(2) 児童の実態について

子どもたちは、4年生の「読むこと」の学習として、「『かむ』ことの手」で、形式段落ごとに要点をまとめ、段落相互の関係を考える学習を行った。このことにより、子どもたちは、中心語句や中心文、接続語などに着目しながら中心的事柄を読み取り、要点をまとめることができるようになってきている。また、段落の役割や段落と段落の接続関係についても、友達や教師と一緒に考え、理解することができるようになってきている。しかし、自分の力だけでは、中心語句や中心文を見つけることや要点を書きまとめることが難しい児童もあり、個人の能力には差が見られる。

本教材では、「『かむ』ことの手」で身に付けた力を生かした学習を行うことで、さらに力を定着させ、文章を自力で読むことができるようにしていきたい。

(3) 指導にあたって

本教材では、「段落相互の関係を考えながら、中心的事柄を読み取ること」をねらいとし、以下のように学習を進めていく。

第一次では、大まかな文章構成をとらえる。その際、「『かむ』ことの手」で学習した中心語句や指示語、接続語などについて確認し、それらに着目しながら、文章構成をとらえることができるようにする。

第二次では、意味段落ごとに中心的事柄を読み取り、段落相互の関係を考える。意味段落ごとの読み取りでは、中心語句や接続語、指示語などに着目することにより、形式段落ごとに要点をまとめることができるようにする。段落相互の関係について考える場面では、それまでの読み取りを振り返りながら小見出しを付け、段落の役割を考えることにより、段落構成をとらえることができるようにする。

第三次では、筆者の伝えたいことを確かめ、自分の考えをもつ。その際、読み取ったことを振り返りながら筆者の伝えたいことを確かめ、一人一人が自分の考えをもつことができるようにする。また、お互いの考えを交流することで、子どもたちの意識を「目的に合わせた伝え方」に向かわせ、自ら発信する活動へとつなげることができるようにする。

3. 教材の指導目標

題名や内容に興味をもち、段落相互の関係を考えながら、文章全体を読もうとする。
 (関心・意欲・態度)
 段落相互の関係を考えながら、中心的事柄を読み取ることができる。(読むこと イ)
 文章全体の中での、それぞれの段落の役割を理解することができる。
 (言語事項 オ(イ))

4. 教材の評価規準 (B)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
題名や内容に興味をもち、段落相互の関係を考えながら、文章全体を読もうとしている。	段落と段落、段落と文章全体との関係を考えながら、アップとルーズの意味や違い、目的に応じて使い分けていることを読み取っている。	段落の中心文や段落相互の関係に気を付けて読み、まとまりとその役割をとらえている。

5. 指導計画 (17時間 読む 7時間)

過程	時間	主な学習活動	具体的評価規準 (B)・【評価方法】
一次	1	単元名とリード文から学習の内容を知る。 教材文を通読し、初発の感想をもつ。 漢字と語句の学習をする。	関 題名や内容に興味をもち、文章全体を読もうとしている。 【発言・態度・自己評価】 読 内容の大体を読み、初発の感想をもっている。 【発言・ノート】
	1	大まかな文章構成をとらえる。 学習のねらいを知り、学習計画を立てる。	言 中心語句や指示語、接続語などに着目しながら、大まかな文章構成をとらえている。 【発言・ノート】
二次	1	形式段落 から、アップとルーズの画面の特徴を読み取る。 形式段落 と の関係を読み取る。	関 内容に興味をもち、段落相互の関係を考えながら、文章全体を読もうとしている。 【発言・態度・自己評価】 読 段落と段落との関係や指示語に着目し、アップとルーズの意味を読み取っている。 【発言・ノート】
	1 本時	形式段落 から、アップとルーズの違いを読み取る。 形式段落 と の関係を読み取る。	言 段落の中心文や段落相互の関係に気を付けて読んでいる。 【発言・ノート】 読 段落と段落との関係や接続語、指示語に着目し、アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあることを読み取っている。 【発言・ノート】
	1	形式段落 から、筆者の伝えたいこと(テレビでも新聞でも、アップとルーズを目的に応じて使い分けていること)を読み取る。	読 段落と段落との関係に着目し、アップとルーズを目的に応じて使い分けていることを読み取っている。 【発言・ノート】
三次	1	各段落の小見出しを振り返り、まとまりとその役割をとらえる。 段落構成を図にまとめる。	関 段落相互の関係を考えながら筆者の伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめようとしている。 【発言・態度・自己評価】 読 段落と段落、段落と文章全体との関係を考えながら、全体の構成をまとめている。 【発言・ノート】
	1	筆者の伝えたいことを確かめ、自分の考えをもつ。	言 段落のまとまりとその役割をとらえている。 【発言・ノート】 読 筆者の伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめている。 【発言・ノート】

四次	2	「4年3組から発信します」を読み，学習計画を立てる。 教科書作例の工夫について話し合う。 グループで話し合い，発信する内容を決める。 まとめ方のイメージをもつ。	<p>関 活動の内容に興味をもち，グループの話し合いに積極的に参加しようとしている。 【発言・態度・自己評価】</p> <p>言 新出漢字の読みや語句の意味について理解している。 【ノート】</p>	<p>書 活動の見通しをもったり，発信する内容や相手，まとめ方を考えたりしている。 【発言・ノート】</p>
	3	発信する内容について取材する。 「選んで伝える」を参考にし，集めた材料を整理して選材する。	<p>関 相手や目的を意識しながら，意欲的に活動に取り組んでいる。 【発言・態度・自己評価】</p>	<p>書 相手や目的に応じて，必要なことを調べて集めたり，選んだりしている。 【ノート】</p>
	2	構成を考え，組立て表を作る。 組立て表を基に，下書きをする。	<p>言 表現するために必要な文字や語句について，辞書を利用して調べている。 【発言・態度・ノート】</p>	<p>書 相手や目的に応じて，組立て表を基に下書きをしている。【ノート】</p>
	2	見出しや割り付けを工夫したり，推敲したりする。 清書をし，仕上げる。	<p>言 文と文との意味のつながりを考えながら，指示語や接続語を使っている。 【発言・態度・原稿】</p>	<p>書 見出しや割り付けを工夫し，相手や目的に応じた言葉や表現，内容を考えて書いている。 【原稿】</p>
	1	作品を掲示し，感想を伝え合ったり，お互いのよさを交流したりする。	<p>関 進んで文章を読み，感想をもとうとしている。 【発言・態度・自己評価】</p> <p>言 文字や語句，指示語や接続語の使い方を意識して文章を読んでいる。 【態度・感想カード】</p>	<p>書 相手や目的に応じた分かりやすい記事になっているかを考え，感想を書いている。 【発言・感想カード】</p>

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・ 段落と段落との関係や接続語，指示語に着目し，アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあることを読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	時間	教師の支援と評価 主発問 ・ 支援
つかむ	1 前時までの学習を想起する。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に「はじめ（形式段落 ～）」で読み取った内容や段落の役割を想起することで，本時の学習課題へつなげる。 ・ 本時では「中（形式段落 ～）」で，中心語句に着目し，アップとルーズの違いを読み取っていくことを確認し，学習の見通しをもつことができるようにする。
	2 本時の学習課題を確認する。	1分	
	アップとルーズでは，どんなちがいがあのかを読み取ろう。		
深める	3 学習場面（形式段落～）を音読する。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読する子どもを意図的に指名し，アップとルーズの違いに気を付けながら読むことができるようにする。 <p>アップとルーズの違いを，一文でまとめている文はどれでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形式段落 「このように，アップとルーズには，それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります。」の一文に着目するようにし，形式段落で具体的に説明されていることをとらえることができるようにする。 ・ 形式段落 の「伝えられること」「伝えられないこと」が，形式段落 では「分かること」「分からないこと」として書かれていることを確認し，読みの視点をもつことができるようにする。 ・ アップとルーズそれぞれの「分かること」と「分からないこと」を抜き出してまとめましょう。 ・ C段階の児童へは，「分かります」「分かりません」を探し，「分かること」と「分からないこと」を抜き出すことができるようにする。 ・ 「分かること」と「分からないこと」について話し合い，アップとルーズの違いを確かめましょう。 ・ 形式段落 の「しかし」，形式段落 の「でも」に着目するようにし，その前に「分かること」が，後に「分からないこと」が書かれており，同じ構成になっていることをとらえることができるようにする。 ・ 読み取ったことを写真で確かめ，より理解が深まるようにする。 ・ 形式段落 の関係を考えましょう。形式段落 の「このように」という指示語は，どの段落を指しているのでしょうか。 ・ 「このように」という指示語がまとめる役割を果たすことを確認し，形式段落 が形式段落 をまとめ，指していることをとらえることができるようにする。 ・ 形式段落 の「伝えられること」「伝えられないこと」は，形式段落 の「分かること」「分からないこと」であることを確認する。
	4 アップとルーズの違いを読み取る。 (1) 課題を解決するための読みの視点を確認する。	5分	
	(2) 課題について一人学びをする。	7分	
	(3) 一人学びしたことを基に学び合う。	10分	
	(4) 形式段落 と の関係を読み取る。	5分	

深 め る	(5) 読み取ったことをま とめる。	7 分	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落ごとに小見出しを付けることで、段落相互の関係を形式の面からだけでなく内容の面からもとらえることができるようにする。 読み取ったことをまとめましょう。 3つの書き出しを提示することで、中心段落だけでなく説明も加えながら書きまとめることができるようにする。
	<p>【発言・ノート】</p> <p>具体的評価規準</p> <p>A：重要語句に着目しながら，アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあることを読み取り，3文程度で簡潔に書きまとめている。</p> <p>B：重要語句に着目しながら，アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあることを読み取り，書きまとめている。</p> <p>Cへの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめることができないでいる子どもには，教師と一緒に，板書を手がかりにしながら読み取ったことを確認し，まとめることができるようにする。 		
	<p>【まとめ例】</p> <p>アップでは，細かい部分の様子は分かるが，うつされていない多くの部分は分からない。ルーズでは，広いほんいの様子は分かるが，細かい部分の様子は分からない。アップとルーズには，伝えられることと伝えられないことがある。</p>		
ま と め る	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 読み取ったことを確かめながら音読する。</p> <p>(2) 自己評価をする。</p> <p>6 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>4 分</p> <p>1 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体で声に出して読むことにより，読み取ったことを確かめることができるようにする。 本時の学習内容や学習方法，自分の学びの成果を振り返り，満足感・成就感をもつことができるようにする。 次時は，「おわり（形式段落）」で，目的に応じたアップとルーズの使い分けについて学習することを確認し，見通しをもつことができるようにする。

(3) 板書計画

<p>まとめ</p> <p>アップでは、細かい部分の様子は分かるが、うつされていない多くの部分は分からない。ルーズでは、広いほんいの様子は分かるが、細かい部分の様子は分からない。アップとルーズには、伝えられることと伝えられないことがある。</p>	<p>このように伝えられること</p> <p>目的におうじて</p> <p>伝えられないこと</p>	<p>写真</p> <p>ゴールを決めた選手たち</p>	<p>写真</p> <p>ゴールを決めた選手たち</p>	<p>アップの分かること・分らないこと</p> <p>細かい部分の様子</p> <p>しかし</p> <p>うつされていない多くの部分</p>	<p>分かること</p>	<p>分らないこと</p>
		<p>アップとルーズのちがいをこのように伝えられること</p> <p>目的におうじて</p> <p>伝えられないこと</p>	<p>アップとルーズのちがいをこのように伝えられること</p> <p>目的におうじて</p> <p>伝えられないこと</p>	<p>アップの分かること・分らないこと</p> <p>細かい部分の様子</p> <p>しかし</p> <p>うつされていない多くの部分</p>	<p>分かること</p>	<p>分らないこと</p>

二 材料の選び方を考えよう

アップとルーズで伝える 中谷 日出

アップとルーズでは、どんなちがいがあのかを読み取るう。